

---

# 直江大和に憑依.....直江大和って一体誰よ？

とある世界の思春期男子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

直江大和に憑依……直江大和って一体誰よ？

### 【Nコード】

N9451Z

### 【作者名】

とある世界の思春期男子

### 【あらすじ】

神のミスで死んだ男がマジ恋の世界に殴り込み！？

主人公憑依、若干チート気味、などなど様々な要素が満載。  
駄作ですが見てくだされば光栄です！！

## 第一話 『これがプロローグってやつ』

王警 side

早速だが自己紹介、俺の名前は神城王警だ。

一応高校二年生で頭もそこそこ良かった方だとは思っていた。生活の方も普通の暮らしでそこそこ楽しんで満足していたさ、さっきまでは。

しかし今の俺はかなり不機嫌、されながら鋭利にとがるナイフの如く……って何かこの表現は中二病末期患者みたいだが勘弁してほしい。今はそこまで気が回らないのだ俺は。

俺がここまでイライラしている原因は目の前で土下座している一人の老人。

さっき俺に会うや否やいきなり聞き捨てならん事をカミングアウトしやがったからな。

さあ君達俺と一緒に耳をすましてよく聞いてくれ。

中々キレない事で地元では有名な俺がここまでキレてる理由が一瞬で分かるぞ。

「単刀直入に言う……お前さんはワシのせいで死んだ」

「ふっざけんなこの超迷惑クソ爺が！！コークスクリューパーンチ  
！！」

大声で叫び気合いを入れ、コークスクリューパーンチを一発放つ

俺の拳は見事相手の顔面に突き刺さり相手は吹っ飛ぶ

喧嘩や乱闘は日常茶飯事だったためそこそ腕力には自身もある

案の定迷惑爺さんは面白いくらいに吹っ飛んだ、が、それで俺の気

分が晴れたかと聞かれれば決してそんなことは無い。  
寧ろイライラや殺意といった感情が次々と芽生え始めた。

何でも俺は目の前の爺さん……まあ一応敬意を払って神様だな。  
その神様のうつかりミスのせいで運悪く死んだらしい。  
しかも俺の死に方だって相当グロテスクなものだった。

何でもダンプカーにぶっ飛ばされた揚句電柱にぶつかり、そのまま  
自分をはねたダンプカーが突っ込んできて近くに合った店の壁に潰  
された……何ていじめだそれ？

死因がマジで洒落になってないしそもそも死んだこと自体が洒落に  
ならない。

本当に、始めて誰かを殺したいと思った瞬間が今だ。

それはそうだろう。こちらら平凡ながらもある程度幸せだと感じら  
れる日常を送っていたのに、親友だと呼べる人達もたくさんいたの  
に、決して豊かではないが自分なりに満足できていた充実で幸せ  
な一時の中で過ごしていたのに、いきなり俺の大切なものがすべて  
奪い去られたのだ。

さすがに高校二年という年頃なので泣いたりは一切しないが寂しさ  
や哀しさなどの負の感情は当然心の奥底から湧き上がってくる。

「いててて。さすがにワシも悪かったとは思っている」

「……………俺はもう向こうの世界には戻れないのか？」

「……………無理じゃ。本当に申し訳が立たんがのう」

今の自分にとってはあまりにも重すぎる一言だった。

その言葉を聞いた瞬間俺の全身の力は抜けて地べたに仰向けで倒れ  
る。

あ、やばい、無意識の内に軽く涙が出てきた。  
そんな事になるんだったらもつと皆と遊んでおけば良かった。  
今更ながら後悔の念などが次々と出てくる。

「じゃが、お前さんはもう一回人生を送ることもできる」

「……何っ！？それは本当か!？」

「但し、本来の世界とはまた違う別の世界じゃがな」

再び軽く凹んだがこの際はもう開き直るしかない。  
こんなチャンスを蹴ったらもう二度と生き帰れはしないと分かる。  
正直に言えば前の世界に戻りたいって事が一番の望みだが叶わない  
のならもうしかたが無い事だ、別の世界に行って前の世界よりも幸  
せに暮らせるよう努力しよう。

「分かった。別の世界に俺は行くよ」

「そうか。それでその世界の事なんじゃがな、もうお前さんの行く  
世界は決まっておる……お前さんに念のため聞いておくが『真剣で  
私に恋しなさい!』』というPCゲーム、もしくはアニメやら漫画  
やらは知っておるかの？」

「（選ばせてすらくれないのかよ）……すまない。全く聞いたこと  
が無いんだが」

「というかPCゲームって事はあれか？」

あのギャルゲーとかエロゲーとかに部類されてるやつか？

……生憎そうい類の物は全くやった事が無いから知識はゼロだ

「やっぱりのう。お前さんはそんな事をするような顔はしとらん」

「人を顔で判断するのは止めるよ」

「まあそんな事はこの際どうでもよい。……ちょっとこれを見なさい」

と言いながら神様は情報端末を俺に渡してきた。

一体何なのだろうかと俺が訝しげに映像を見始めると、そこに映っていたのは黒髪で綺麗だと思ってしまうた一人の女性。

で、これ誰よ？

「それはその世界のメインヒロインの一人じゃ。今からその女性が戦い始めるからよく見ておくがいい、ワシの言いたいことが分かる」

「一体何を見ると……………嘘だろ……………超鬼畜じゃん」

情報端末に映っていた映像はとても俺の世界で信じられるものでは無かった。

さっきの女性が三十人ぐらいの不良と思われる人物達を速効で血祭りに上げる。

そしてその後何やらテトリスっぽい事をしたと思えば、テトリス状態と化した不良達を……………思い切り蹴っ飛ばした。

……………どこの鬼畜っつーかももうSMクラブの女王様のレベルでもないぞこれは。

この人にはなるべく関わりたくないな。

「まあ想像はつくじやろうがこの世界に行ってもらおう」

「……………え、マジで？俺あんな人と戦ったら死ぬよ？ギャグ補正付けてくれる？」

「そこは安心しなさい。何か能力を付けて送るからのう……………くじ引きで決めたやつで」

「さすがにそこは選ばせてはくれませんかねえ！！」

最悪の場合を想定して俺はさすがに反論。

何が最悪かっていうと能力の中でも一番弱いのを選んでしまう事だ。ハッキリ言って俺はくじ運はあまり良くない。悪くは無いのだが良くもない、つまり普通だ。

「まあここで運を試すのもいいかもしれんぞい」

「悪いくじを引いたら絶対にあんたをぶっ飛ばしてやる！」

「……………悪いくじを引きませんように……………」

「そんなに心配なんだったら俺に決めさせてくれよ！後何か身に祈りをささげてんだよ！お前自身が神なんだから意味無いだろそんなの……………」

「っは！そ、そうじゃった！！」

「お前神のくせして絶対にバカだろ」

そして運命の一投ならぬ運命の一引き。

そこで引いた能力は……………え、何も丸太に書いてないだと？

……………いやいやいやいや！！ていうか何でくじ引きの中に丸太が入っ



神様 side

「ふふふ、全く……おもしろいくじを引くものじゃ」

ワシは再びあの男の引いたくじを見つめ返す。

散々言っておった割にかなりいいくじを引きおったわ。

これからあの男がどんな物語を作り出していくのか、まっこと楽しみじゃ。

あの男が引いたくじには、この文字が書かれていた。

8

『ドラゴンボールの孫悟空並みの気や体術（スーパーサイヤ人は3まで）』

『主人公の直江大和に憑依する』

自分の事でもないのに心が躍るようじゃ。

ワシが言えることではないが……精一杯生きるのじゃぞ、王警よ。

神様 side out

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9451z/>

---

直江大和に憑依.....直江大和って一体誰よ？

2011年12月29日16時52分発行